

アメリカと日本における高齢者女性の服装意識と実態

○伊地知美知子** 小林茂雄**

(*文教大、**共立女大)

<目的>高齢者女性の服装に対する考え及び着装実態について、47・48回大会において報告した。今回、アメリカのロスアンゼルス地区において、高齢者女性を対象に同様の調査を実施し、これまでの調査結果と対比しながら考察した。

<方法>ロスアンゼルス地区にて60歳以上の日系女性60名につき、1996年8月に質問紙面接調査法によるアンケート調査を実施した。なお、一昨年は日本の首都圏において、昨年はハワイのホノルルにおいて調査を実施している。調査内容は、日常着のタイプと選択基準、服装に対する考えやおしゃれ意識であり、これらの質問はこれまでの調査においても用いている。調査データには分散分析、数量化Ⅲ類による解析を適用し、これまでの調査結果と比較検討した。

<結果>アメリカの場合、ホノルル、ロスアンゼルスともに、日常着のタイプで多いのは上衣ではTシャツ、ブラウスであり、下衣ではズボンが圧倒的に多く、日本の場合と比較するとスカートが非常に少なかった。日常着の選択基準は、着心地のよい、着脱しやすい洗濯しやすい、動きやすいなどが上位にあげられ、アメリカと日本では同様の傾向にあった。しかしながら、地味な色、年齢にあっているをあげる割合は、ロスアンゼルス>ホノルル>日本の順に多かった。服装観やおしゃれ意識の平均評定値について分散分析をした結果、日本とロスアンゼルスの間、日本とホノルルの間には有意差があらわれた項目が多くあったが、ロスアンゼルスとホノルルの間にはあまり有意差があらわれず、アメリカと日本との間における違いが明らかになった。